

令和元年度玉東町立山北小学校 心のアンケート ～楽しい学校生活をおくるために～の結果について～

令和2年2月28日

1 調査結果の概要（抜粋）※（ ）内は前年度比

- (1) 「学校が楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒
87.8%(-6.6ポイント)であり、平成30年度に比べてやや減少傾向となっている。
- (2) 「今の学年でいじめられたことがある」と回答した児童生徒
42.6%(+9.9ポイント)であり、「いじめられた」と回答した児童生徒の学年別割合をみると、前年度と同様に1年生から3年生が8割を超えている。
- (3) 「いじめられた相手」
「クラスの人」が最も多く、次いで「上級生」、「他の学校の人」が挙げられている。
- (4) 「どんないじめを受けたか」
「仲間はずれにされた」が最も多い。次いで「冷やかし、からかい」、「言いがかり、おどし」となっている。
- (5) 「今もいじめは続いている」と回答した児童生徒
いじめられたことがある児童生徒のうち「今もいじめが続いている」と回答したのは、53%(+13ポイント)である。その後の継続的な取組により1月末時点でいじめ行為は概ね止んでいるが、一部の児童については、細やかな様子観察など見守りを続けている。
- (6) 「いじめられたことをだれかに話したか」
「話をした」と回答した児童生徒は、63.3%(-24.4ポイント)である。
- (7) 「いじめを受けた人は、だれに話をしたか」
全体として「担任の先生」、「家族」へ相談する割合が高く、次いで「友だち・先輩」「養護の先生」となっている。
- (8) 「いじめを受けた人は、なぜ話をしなかったか」
「知られなくなかった」、「自分で解決できると思った」や「家族などに心配をかけると思った」という理由が挙げられた。
- (9) 「自由に使えるネットに接続可能な機器（携帯端末：ゲーム機器等を含む）を持っているか」
74.8%(+1.9ポイント)である。なお、「ゲーム機」が最も多く、次いで「タブレット端末」となっている。スマートフォンの所持率については13.9%である。
- (10) 「上記（9）で答えた機器で、よく使用する機能は何か」※小学校3年生以上が回答
「ゲーム」が最も多く、次いで「メディアプレーヤー」が多かった。
- (11) 「家庭でのきまりごと（ルール）があるか」
「ある」と回答した児童生徒は、小学校が76.8%(+4.9ポイント)となっている。

2 今後の対応

- (1) いじめ防止対策委員会
定期的あるいは必要に応じていじめ防止対策委員会を校内で開催し、いじめ等に関わる情報を全職員で共有するとともに、関係機関等との連携に努め、組織的にいじめ問題等に対応する。
- (2) 教育相談（年3回：6月、11月、1月）
定期的な教育相談を実施し、だれかに話をするきっかけをつくり、教職員が児童の関係や個々の思いに気付くとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向けた学校の組織的対応を充実させる。
- (2) スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携
熊本地震に係る対応も含めて、専門家の積極的な活用を図り、関係機関と連携して学校での教育相談体制を充実させる。
- (3) ストレス対処教育
児童の様々な生活上の困難・ストレスに対処できる力を育てることを目的とし、全学年実施する。
- (4) 電話相談窓口カード
関係機関の相談窓口電話番号をまとめたカードを全児童に配付する。だれにも相談できないときの相談先の一つとして継続して周知を行い、いじめの早期発見、早期対応につなげる。